

# 水稻・麦・大豆栽培情報 3月号

平成29年 3月 3日

J A 柳 川

南筑後普及指導センター

## 【小麦】

### 1 生育概況

麦の生育は、11月下旬播きですでに茎立期を過ぎており、平年より生育は早いようです。また、茎数は十分確保されています。

雑草については、降水量が多いため、タデ類等の発生が多くなっています。

### 2 雑草対策

カラスノエンドウの種子が収穫物に混入すると、調製を行っても除去しにくいため、規格外になります。翌年度の発生を抑えるためにも、畦畔部も含めて莢が色づく前に手取り除草しましょう。

カラスノエンドウやタデ類で薬剤を使用する場合は、穂ばらみ期までにアクチノール乳剤（100～200ml/水量 100ℓ/10a）を使用します。カラスノエンドウは、大きくなったら効果が劣りますので早めに散布します。

麦の生育状況によりますが、中耕・土入れは3月上旬まで行えるため、倒伏や排水対策も兼ねて実施しましょう。

### 3 病虫害防除

赤かび病は、小麦の品質や収量に及ぼす影響が大きいいため、出穂後 7～10日の開花期に必ず防除を実施してください。

また、高温多湿条件になると、赤かび病が多発する恐れがあるため、1回目の散布から1週間後に2回目の散布を実施します。

〈赤かび病防除〉

薬剤	使用量 (10a 当たり)	散布時期
トップジンM粉剤DL	4 k g	開花期頃 (出穂後 7～10日)
トップジンM水和剤	1000 倍/100ℓ	

※使用回数は小麦で出穂期以降 2 回以内

※粉剤は散布後 5～6 時間以内に降雨に遭うと、効果が低下します。週間天気予報等を参考にしながら、早めの準備を心がけ、条件のよい日に散布して下さい。

※本年の防除適期については、4月号でお知らせいたします。

#### 4 ミナミノカオリの穂揃期追肥

ミナミノカオリについては、麦粒中のタンパク質含有率の向上を図るため、穂揃期追肥を必ず実施します。

肥料名	施用量 (10a 当たり)	施用時期
硫 安 (21-0-0)	15 kg	穂ぞろい期 (出穂後 7~10 日)

※尿素の葉面散布を実施する場合は、開花期（出穂後 10 日頃）と開花後 7 日頃の 2 回、実施するようにします(3.5kg/100ℓ/10a×2 回で硫安 15kg/10a に相当します)。

#### 5 排水対策

湿害を受けると、麦の収量・品質は大きく低下します！

4 月以降も、降雨量が増えることが予想されます。ほ場内に水が停滞し続けると、根傷みによって“枯熟れ”しますので、排水溝の整備を十分に行った上、ほ場の落水口にきちんとつなげましょう。



畔溝、作溝をつなぎ地表排水を促しましょう。

#### 農薬使用上の注意

- 1 散布前に必ず農薬ラベルを確認！
- 2 散布時には近隣作物や住宅街への飛散防止を徹底！
- 3 散布後は必ず散布器具(タンク、ホース等)を洗浄！
- 4 防除履歴の正確な記帳！